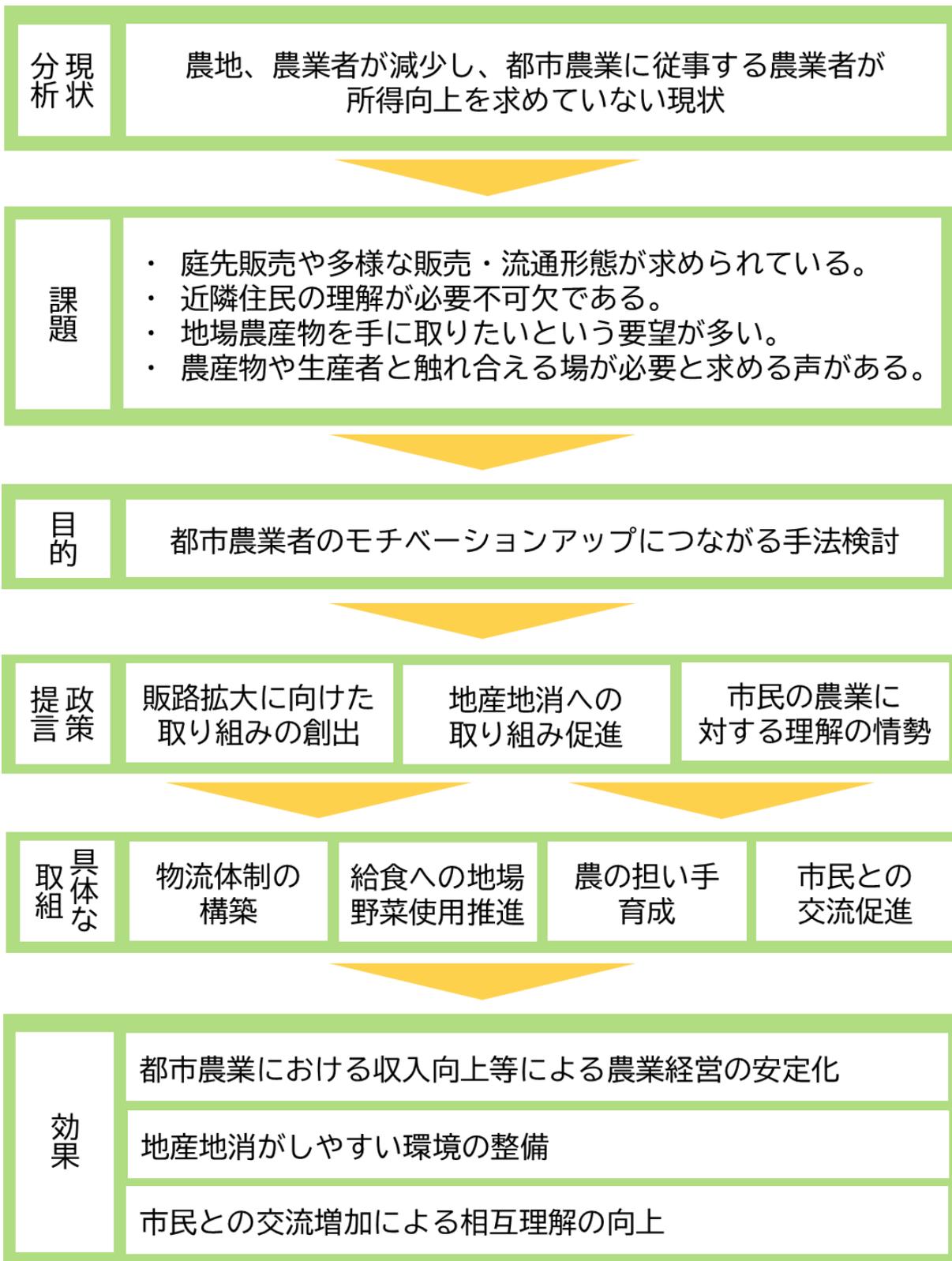


第1班

1. 政策提言の要旨



政策提言の要旨

<p>根拠法令</p>	<p>障害者の雇用の促進等に関する法律第1条 「…障害者がその有する能力を有効に発揮することができるようにするための措置…その職業生活において自立することを促進するための措置を総合的に講じ、もって障がい者の職業の安定を図る」</p>				
<p>現状分析</p>	<p>障がいを持つ職員へのアンケートで満足度が低い項目は ・「相談体制等の職場環境」 ・「勤務するうえでの障がいへの配慮」 障がいを持つ職員の職務満足度は離職意図と関連しているとの検証結果</p>				
<p>課題</p>	<p>どの職員がどのような障がいを持っているか分かりづらい</p>	<p>研修を実施するが現場に浸透していない</p>	<p>障がい特性に合った対応が分からない</p>	<p>相談体制が不十分</p>	<p>すぐ各課に配置すると障がいを持つ職員の特性とミスマッチ</p>
<p>政策提言</p>	<p>障がいを持つ職員が能力を有効に発揮するために</p>				
<p>具体的取組</p>	<p>障がいを持つ職員が自分説明書を作成</p>	<p>研修体制の充実</p>	<p>所属先課長（合理的配慮推進員）が中心的役割</p>	<p>相談体制の充実</p>	<p>集中型配置</p>
<p>効果</p>	<p>自治体で働く障がいを持つ職員が100%能力を発揮 ↓ 多様性に配慮した皆が働きやすい職場の実現 ↓ 住民の多様性に配慮した行政サービスの向上 ↓ 誰一人取り残さないというSDGsの精神の実現</p>				

第3班

報告書の概要

現状分析

R5高校存続問題(香川県立小豆島中央高等学校)
年少人口 H12 4,812人 → R2 2,460人 → R27 1,076人
出生数 H17 204人 → R4 93人
入学者数の減少
H29 175人 → R5 130人
島内定着率
H29 78% → R5 63%
入学者数、島内定着率ともに減少している

課題抽出

- ① 高校と地域の連携不足
- ② 島内定着率の低下
- ③ 留學生の継続的な確保
- ④ 高校の魅力づくりとその発信

政策提言目標

適正規模1学年4学級を維持できる生徒数 121人以上
目標年次 令和15年度
島内定着率 75%以上 留学者数 15人以上

政策提言

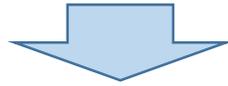
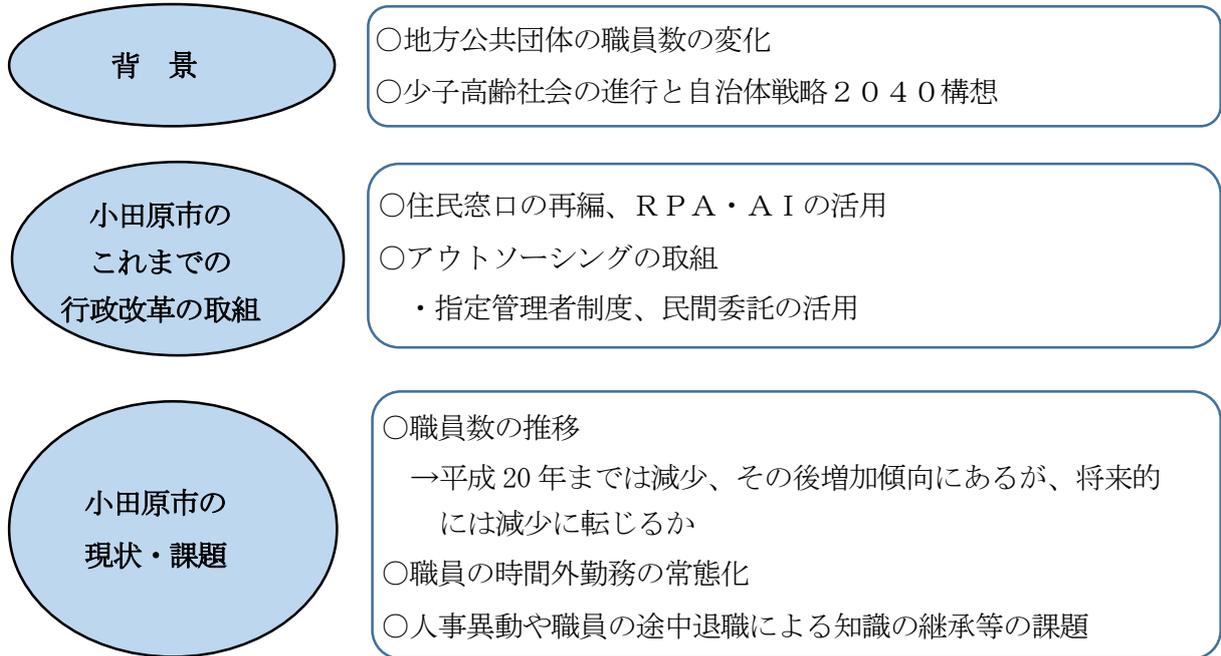
- ① 関係機関との連携強化と体制づくり
◇小豆島中央高校みらい協議会の設置
- ② 島内定着率の向上
◇特進制度の維持
◇授業以外の学習機会の充実
◇部活動の強化
◇広がりのある人間関係の創出
◇行政の支援(通学補助)
- ③ 留學生の増加
◇居住場所の確保とコーディネーターの配置
◇留學生をサポートする世話人会の設置
◇アプリケーションシステムの運用
- ④ 高校の魅力づくり
◇オンライン学習環境の整備
◇しまのみらいプロジェクトの活動支援
◇官学連携によるキャリアプランニング支援

政策効果

地域にその年代の人口をとどめ、高校を存続させる
高校生の家族も含め地域社会の維持を達成
波及的には公共交通の利用促進や空き家の活用
留學生の増加による地域への経済効果 など

第4班

報告書の概要



限られた職員数で行政サービスの質を低下させることなく、新たな課題に対応していくには、さらなる業務の削減・効率化に加え、職員の知識・技能の向上が必要不可欠

政策提案

①民間委託の有効性の再発見

費用対効果や業務効率化だけでない民間委託の有効性
複合的な視野から見る民間委託業務の例

- ・固定資産税の家屋評価補助業務
- ・小学校のプール授業

②DXを活用した マニュアル作成・共有

「見やすく、使いやすく、作りやすい」マニュアルを
「庁内職員向け、市民向け、引継書」の3段階で全庁的に整備

効果

- 業務削減による職員の負担軽減
- 民間が培った専門的知識・技能の吸収
- 業務の属人化の解消

第5班

政策提言の要旨

1 DXにおける現状

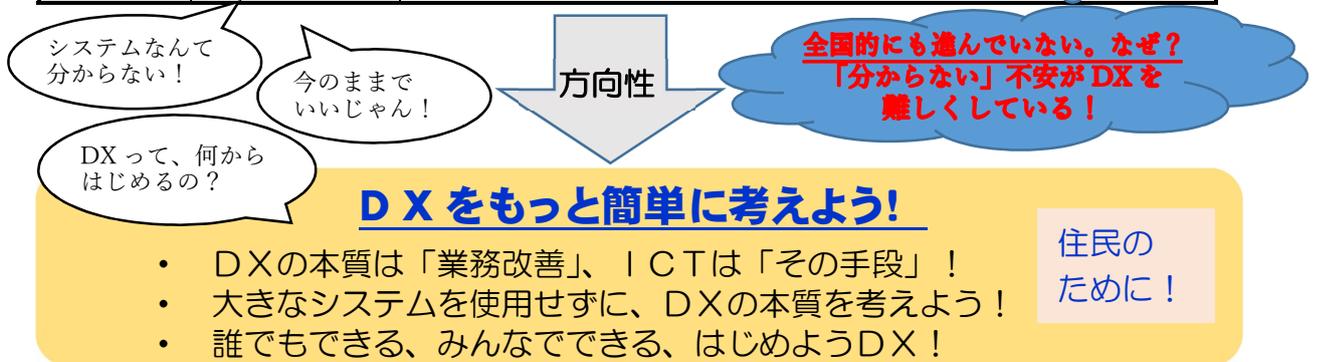
国	・ 令和2年12月：「自治体DX推進計画」を策定【令和4年9月改定】
県	・ 令和3年3月：「埼玉県DX推進計画」を策定
坂戸市	・ 令和5年3月：坂戸市DX推進計画を策定（令和5年度～令和9年度） 全庁横断的な推進体制として、最高デジタル責任者（CDO）や各課にデジタル推進員を配置するなどした「坂戸市デジタル行政推進体制」により取組を開始 （窓口業務を拡充予定） 令和5年度より、DX推進計画に基づき、現在の「簡単窓口システム」を手書きによる申請受付から電子による申請受付へ拡充予定

2 埼玉県坂戸市の現状を踏まえた窓口DXの目標・課題と方向性

「書かない窓口」に焦点を絞ることにより、課題とその方向性の明確化を図る。

【住民は手続きで何度も4情報等¹を書くことに負担・不満！→1度に1か所まで→首長も(^_^)】

目標 先進地より	住民サービスの向上	・ 住民の負担軽減（4情報等の重複記載をなくす） ・ 住民の全体手続き時間の短縮
	行政の業務効率化	・ プログラミング的思考によるBPR ² の実施 ・ 業務のシステム化（マニュアル化） ・ 行政の全体手続き時間の短縮
	最終目標	・ ワンストップ総合窓口（「書かない窓口」を含む）
課題	DX推進体制	・ 情報統括部署と業務担当部署とのDX推進意識の差 ・ ICT人材（キーパーソンとなる人材）の不足
	窓口担当部署	・ DXの必要性に対する疑問 ・ DXの取組による負担増加の懸念 ・ DXの具体的な方向性や進め方の検討



3 政策提言

スモールスタートではじめる
「目指せ! 書かない窓口」
～まずは「ホップ!」→ステップ→ジャンプ～



ホップ! : エクセルによる簡単なシステム環境の構築、BPRの実施
ステップ! : 「申請書作成支援システム（事業者）」の導入と「総合窓口」の設置
ジャンプ! : 「ワンストップ総合窓口体制」の構築

大きなDXの流れへ!

¹ 4情報等：住所、氏名、生年月日、性別、その他手続き時に共通して記載する事項
² BPR：Business Process Re-engineering＝業務フローや組織などの根本的な見直しと再構築